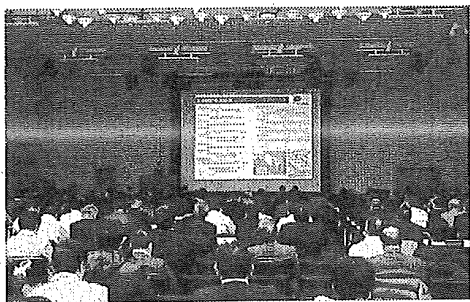


4分野の技術紹介

福岡市で土研ショーケース

土木研究所は25日、福岡市博多区の福岡県中小企業振興センターで建設コンサルタンツ協会九州支部との共催による「土研新技術シ



ョーケース2018 in 福岡」を開催した。写真。約400人が参加。同研究所が開発した河川、モニタリング、環境対策、長寿命化の4分野の技術などを講演や展示で紹介した。

開会に当たり土木研究所の西川和廣理事長は同研究所の沿革、研究開発や技術指導・災害対応支援、国際貢献活動、研究成果の普及などの活動内容を紹介。

来賓の増田博行九州地方整備局長は「民間や行政の皆さんと連携して新技術の活用をさらに進めていきたい。本日のショーケースが九州の建設技術者の技術力の向上、産学官の連携の強化に資することを祈念する」とあいさつした。

引き続き同研究所の研究員による講演のほか、九州大学大学院工学研究院付属アジア防災研究センターの三谷泰浩教授が「3次元データによる道路構造物の維持管理」、九州整備局の島本卓三九州技術事務所長が「新型簡易遠隔操縦装置（ロボQS）の開発」と題しそれぞれ講演。新技術などのパネルや模型の展示、技術相談なども行った。